

## 2019年6月14日、今泉小学校6年生、「防災マップづくり」講習会の報告

作成：福田博（海老名災害ボラ）

開催日時：2019年6月14日（金）8時45分～10時20分、会場：今泉小学校、体育館  
参加者：今泉小学校6年生3クラスの児童（108名）と担任の先生  
講師：中村敏一（海老名災ボラ会員、消防庁関連組織で「防災マップづくり」講習の指導員）  
スタッフ：海老名災ボラ会員（福田、星野、水本、野本）、海老名市社会福祉協議会（池田）



### （1）準備作業

- ① 6月14日（金）8時～直前ミーティング：海老名災ボラ+社協職員、今泉小学校の体育館内  
講師が作成した本日の資料を基にスタッフの役割を確認した。
- ② 8時30分～会場設営：体育館内に、スクリーン、プロジェクター、パソコン、マイクを準備する。

### （2）「防災マップづくり」講習会の開始～終了までの流れ

- ① 小学校区の地図を各チームが広げて、講習会の開始を待つ  
児童が18チーム（6人で1チーム）に分かれ、それぞれのチームが体育館の床に「今泉小学校区の白地図」を広げ、地図の回りに座る。（この地図は当日までに各チームがA4版の白地図をつなぎ合わせて作ったもの）
- ② 児童が講師の説明を聴いて、白地図に「色塗り」（クレヨンか色鉛筆）を開始する  
●講師がプロジェクターを使って、児童に「防災マップづくり」の目的（効果）を説明する。地震災害に

対する自分の住む地域の強さ・弱さを理解する⇒「災害を知り、地域を知り、人（お互い）を知る」。

●地図上に自分の住む場所を記入する。⇒鉄道・大きな道路・小さな道路、広場・公園・田畑、河川、公共施設、多くの人が集まる場所、公共施設、避難所などを記入し、色別に塗る。

●子供たちは、それぞれ話し合いながら、危険な場所を地図に赤色で記入する。

例) 自分の身長より高いブロック塀、自動販売機、お店の看板、大きなガラス窓のある建物、危険物のあると思われる工場や施設など。

③ スタッフ及び担任の先生は、各チームを回りながら、質問に回答する・アドバイスする

児童から、どのようにしたらよいかなど質問が出る。スタッフや担任の先生たちがアドバイスする。

④ 児童は色塗りを一時中止して、講師の話を聴く、講師は地震の危険性を写真で示す

講師は、震度6強という地震の揺れがどんなものかを話す。地震による火災、土砂崩れ、液状化、倒壊したブロック塀などの写真を見せると同時に、地震はいつでも起こる危険性があることを話す。

⑤ 児童は地震が起こった時に、被害が起こりそうな場所を赤で色塗り、自分の通学路を記入する

児童は通学路を中心に地震被害の状況をイメージする。講師は、地震で電気・水道・ガスが止まったことを考えて、地震が起こる前にどんな準備をしたらよいかを考えて家で話し合ってくださいと話す。

⑥ 講師は地震が起こった時、自宅でどんな危険があるかを間取り図を書いて話し合ってもらいたいと訴える

### (3) 参加者（児童・先生）の反応など

① 児童や担任の先生たち：色塗りなどが進んだチームや、なかなか進まないチームなど、チームによっていろいろであった。色塗りや発言など積極的に参加している児童や、あまり乗り気でない児童も見られた。担任の先生たちは、自分のクラスの児童を丁寧に回っていた。

② 担任の先生から、子どもたちの中から「防災の街歩き」をしたいという声が出てくれば、何らかの形で実現して、次へ繋げたいという意見を聞いた。

以上